

■東日本大震災で建設トッププランナー倶楽部幹事会

地域建設業が連携し 被災地に救援物資

全国の地域の建設業の有志で組織する建設トッププランナー倶楽部幹事会のメンバーが連携し、東日本大震災の被災地に救援物資を届けた。東北・関東地区で入手しにくく

なっている灯油やコメなどを中部地区の建設会社などが提供、これらを中心とした物資を神奈川県内の建設会社が22日から23日にかけて岩手県釜石市にトラックで運んだ。

また、灯油の輸送に当たっては、長瀬土建(岐阜県、長瀬雅彦社長)がドラム缶を調達。鈴鍵(愛知県、梅村正裕社長)と和仁建設が計30000リ

の灯油を確保した。

さらに富士建設(神奈川県、文字和男社長)が飲料水や紙オムツ、乾電池などの生活用品を集めた。また、介護事業に取り組んでいる瀬戸建設(神奈川県、瀬戸良幸社長)が介護関連用品などを用意した。

輸送は富士建設が担当し、同幹事会の代表幹事の米田雅子慶応義塾大学教授も同行した。22日夕方に神奈川県内を出発、

コメは、新事業として農業に取り組んでいる和仁建設(岐阜県、和仁松男社長)が2トンを提供した。

また、同倶楽部幹事会に参加する大場組(山形県、大場利秋社長)は、グループ企業の社会福祉法人の施設を避難所とし、被災者を受け入れて

23日早朝に釜石市に到着。釜石市の災害対策本部で野田武則市長に救援物資を渡した。

また、同倶楽部幹事会に

釜石市の野田市長(左端)に救援物資を届けた建設トッププランナー倶楽部幹事会の米田代表幹事(右から二人目)と文字氏(右端)

